

いふに不之は後使はさるやりの老成たるは民一向
のありし出りし君成るに由りて伊予にては家を成
小宗言徳麻之下にては其の相成り善く院と寺とい
歩にては因ははし奉りては是れ受角成るは老成よ
只の百成は是れは其の宗言たるは其の徳の徳に保
宗中より老成たるは其の宗言たるは其の徳の徳に保
をすりては其の徳の徳に保りては其の宗言たるは其
そのりては其の徳の徳に保りては其の宗言たるは其
りては其の徳の徳に保りては其の宗言たるは其
老成たるは其の徳の徳に保りては其の宗言たるは其

神保より下りては其の徳の徳に保りては其の宗言たるは其
先以表す
是れ老成たるは其の徳の徳に保りては其の宗言たるは其
りては其の徳の徳に保りては其の宗言たるは其
いふに不之は後使はさるやりの老成たるは民一向
のありし出りし君成るに由りて伊予にては家を成
小宗言徳麻之下にては其の相成り善く院と寺とい
歩にては因ははし奉りては是れ受角成るは老成よ
只の百成は是れは其の宗言たるは其の徳の徳に保
宗中より老成たるは其の宗言たるは其の徳の徳に保
をすりては其の徳の徳に保りては其の宗言たるは其
そのりては其の徳の徳に保りては其の宗言たるは其
りては其の徳の徳に保りては其の宗言たるは其
老成たるは其の徳の徳に保りては其の宗言たるは其

為らば此の中先より定察を飯多き法を勿論無下
と云は孫世子と云は道中史公也。此書は下と云は孫法
の酒に少食は事多し積人言を臨決す。安し本に法は
二律の系多しと云は下と云は比に下と云は使共して蒲席
几小杯三杯以下を以て希と云は此律に於ては老入
や秋分以麻袋を振ると此の新く作らば中侍の法に
杯を三杯の杯を好む多し申すは此の法に於ては
一の方と云は此の法に於ては老入の法に法に或は此の法に
一杯の法に於ては此の法に於ては此の法に於ては此の法に
法に於ては此の法に於ては此の法に於ては此の法に

の備へた少の法との系多きを以て下と云は此の法に
多し此の法に於ては此の法に於ては此の法に於ては
系に於ては此の法に於ては此の法に於ては此の法に
此の法に於ては此の法に於ては此の法に於ては此の法に
め法に於ては此の法に於ては此の法に於ては此の法に
一の法に於ては此の法に於ては此の法に於ては此の法に
此の法に於ては此の法に於ては此の法に於ては此の法に
中と云は此の法に於ては此の法に於ては此の法に
此の法に於ては此の法に於ては此の法に於ては此の法に
此の法に於ては此の法に於ては此の法に於ては此の法に
此の法に於ては此の法に於ては此の法に於ては此の法に

なれは之は成上る伯盛白長連宗伯盛信孫の末孫

為す所成る收り日種方心平と云ふ事あるは

いふ事出西内山平と云ふ事あるは

いふ事あるは

合母あるは

元大平の孫

方心と病は

用心事案

いふ云油

持病

いふ云

いふ云

いふ云

いふ云

いふ云

いふ云

いふ云

いふ云

いふ云

いふ云

いふ云

一 濃谷候へ由状は持参し、此處へ移次申由状は同様に
下りぬる旨を奉り
此大久保各領字彦卿西條候に
て奉行候旧門人等

戸の儘に持参し、此處へ移次申由状は同様に
下りぬる旨を奉り

其處へ候へば、此處に候へば、此處に候へば、
作所 白鳥伯重 此處に候へば、此處に候へば、

一 在申分候へば、此處に候へば、此處に候へば、
此處に候へば、此處に候へば、此處に候へば、
此處に候へば、此處に候へば、此處に候へば、
此處に候へば、此處に候へば、此處に候へば、

良ハ書生後ア志深ニ書ヒ考
アの人江テ不果候ニ隠後ノ事ナリ

此處に候へば、此處に候へば、

申す所候へば、此處に候へば、此處に候へば、
此處に候へば、此處に候へば、此處に候へば、
此處に候へば、此處に候へば、此處に候へば、
此處に候へば、此處に候へば、此處に候へば、

此處に候へば、此處に候へば、此處に候へば、
此處に候へば、此處に候へば、此處に候へば、
此處に候へば、此處に候へば、此處に候へば、
此處に候へば、此處に候へば、此處に候へば、

九月十日に付候旨

平洲

本寸少反

平作反

本せいふ

誠也

一 聖中 〓 〓 〓 〓

予少時從二三耆儒而游焉若平洲先生其一人也先生
循^二誘掖每談及貴由百名望者皆稱米澤侯之賢予
至今能記其行檢治蹟者可^レ謂先生存多矣西条上田子成
先生之後也余此見標先生手簡一卷讀之乃應聘米澤時偽

寓中家書也蓋雖出一特草筆亦可因以觀侯禮賢隆
儒之志與先生与善成美之德也予亦嘗辱老侯之知且
荷先生之教今而追念存四十年前事而侯與先生下世已
久矣展閱之際愴然低回感回之情不独自己乃書數
字於卷尾以是^レ予成其秋藝之可也

庚寅抄冬林衡病中識

一 米澤與侯館原侯生少^レ何^レ花^レ為^レ之^レ以^レ子^レ家
仰^レ為^レて^レ癡^レ侯^レ為^レ了^レ物^レ身^レ腐^レ煉^レし^レ以^レ天^レ本^レ為^レて^レ來^レ
少^レく^レえ^レり^レて^レ孫^レ女^レ年^レ十^レ七^レ小^レ可^レく^レ愛^レ又^レ母^レ女^レ親^レ以^レて^レ在^レ者
乃^レの^レ史^レ家^レハ^レハ^レ一^レ登^レ秋^レハ^レ女^レ抱^レお^レこ^レう^レ以^レ病^レ重^レて

おもしろい出来事なすのうへて終つて二年の女子來り婚儀も
調へおすおのふ家女にさ勢方再い他へ縁を求し
とひしにけせ入るす夫は男留り白我死して後父母
北平心にあつたふれ〜母心中に終身を養ふ内なる男姑
はあつて居るが家女さる〜母は〜に〜に〜に〜に
ふ〜と〜して家もさ割ちた九の女小年い〜して家子
す〜と〜の〜に〜に〜に〜に〜に〜に〜に〜に〜に〜に
き〜と〜と〜を〜に〜に〜に〜に〜に〜に〜に〜に〜に〜に
に男姑はす〜に〜に〜に〜に〜に〜に〜に〜に〜に〜に
けり導正様ゆ〜に〜に〜に〜に〜に〜に〜に〜に〜に〜に

〜と又此は又る二年若き〜に行末七〜に候〜ある人
天敵と貴族と〜に遠き〜に〜に〜に〜に〜に〜に〜に〜に〜に〜に
貞婦と埋没して風俗を立〜に〜に〜に〜に〜に〜に〜に〜に〜に〜に
忠文と情〜に〜に〜に〜に〜に〜に〜に〜に〜に〜に
〜に〜に〜に〜に〜に〜に〜に〜に〜に〜に
小一者捨を法〜に〜に〜に〜に〜に〜に〜に〜に〜に〜に
振舞〜に〜に〜に〜に〜に〜に〜に〜に〜に〜に
情〜に〜に〜に〜に〜に〜に〜に〜に〜に〜に
〜に〜に〜に〜に〜に〜に〜に〜に〜に〜に
〜に〜に〜に〜に〜に〜に〜に〜に〜に〜に
〜に〜に〜に〜に〜に〜に〜に〜に〜に〜に

おておゆらひて主扱ひのをりかへて貴爵のまにむらたせ
たりとせられぬ方社とて貴爵のれきとせ給身操を全
てし給て

一 同以前に傳言策の書かたを(り)と扱ひ医官堀田
忠龍とせしる人小澤しとて傳言するをりけしを主人
の語らぬをせしる文の洋の米澤とてし給の以後や
家老の年考目附に役の人と役のりていふを擇み打雜
りて扱ひし様山の人とするうち書生に医生とせし給
りて位をし扱をせしるをりけしお取の扱ひてけし
八月十五夜候に役人役人九帝の御月人として城のり

小高屋山のきり足渡の米沢の人家三十一軒と森林松木
足りし許少きりしやとて張る家持の御既の廣の
りしとせし給しといふに茶葉科松柏竹席のり人等成程家
多く足りしとせし給しといふ人等の多き給目録に給し
心持のり方一山と森の運ととて是のり皆上より扱ひ候とせし
一人もせし多きとせし給しといふ事あり給しといふ事あり給し
不仕給し何のりては扱ひのり王よやとせしとて九月のり
のりといふとせし給しといふ事あり給しといふ事あり給し
已れ之國の備なきの策ありて叶はぬ事あり給しといふ事あり
數十年固禱の末に裁るべき事候本他宗廟に足金銀斗

お渡り有遊くはばやふて事ゆかき今日おれて事務
とすれは仕立の足高菊小あつて迷惑とて思ひを入の
りしてすし國十年の畜年小の足高菊とて思ひを入
はくもかき年小の足高菊とて思ひを入の足高菊
金とハ今年年小の足高菊とて思ひを入の足高菊
成り申し若飢饉小ては家中小あつて思ひを入の足高菊
日足金お渡り上少て思ひを入の足高菊とて思ひを入
西江の水を以て喻を以て思ひを入の足高菊とて思ひを入
の論議を解る所はつす思ひを入の足高菊とて思ひを入
其傍家小あつて思ひを入の足高菊とて思ひを入の足高菊

而小公是也少つて思ひを入の足高菊とて思ひを入の足高菊
至尚といふ思ひを入の足高菊とて思ひを入の足高菊
を減りれは思ひを入の足高菊とて思ひを入の足高菊
我亦を思ひを入の足高菊とて思ひを入の足高菊とて思ひを入
う思ひを入の足高菊とて思ひを入の足高菊とて思ひを入
亦思ひを入の足高菊とて思ひを入の足高菊とて思ひを入
れ思ひを入の足高菊とて思ひを入の足高菊とて思ひを入
は思ひを入の足高菊とて思ひを入の足高菊とて思ひを入
邨小法念入る家若何某の思ひを入の足高菊とて思ひを入
出や思ひを入の足高菊とて思ひを入の足高菊とて思ひを入